

㉓ 2026年1月(令和8年1月)



消えた依網池

『日本書紀』すじん てんのう 崇神天皇六十二年の条に「冬十月、依網池を造る」、また、推古天皇またくにごと十五年の条にも「依網池を造る。亦国毎に屯倉を置く」と記されており、5世紀前半から7世紀初頭にかけてヤマト王権が広大な依網池を造り、農地を開拓して屯倉を設置したと推察されます。面積は40~50ヘクタールで住吉区の我孫子、苅田、かんがい庭井から堺市の常磐町、今池まで拡がって摂津・河内・和泉の三国に灌漑する大貯水池でした。その管理に当たった依羅氏は、網を用いて魚や鳥を獲る、当時の先進技術を持った一族で、その祖神をお祀りしたのが式内社である大依羅神社です。また、『日本書紀』には神功皇后が新羅遠征の際、戦勝と航海の無事を祈って「依羅吾彦男垂見」に住吉三神を祀らせたとの記述もあります。

依網池は、1704年の大和川付け替えにより南側3分の2が川底や河川敷・田畠になり、北側の3分の1が池として残りましたが徐々に狭まり、最後まで残っていた庭井の池も昭和40年代に無くなってしまった。依網池は完全に姿を消しました。



「依網池址」石碑



旧依網池側からの大依羅神社参道
(写真はいずれも著者撮影)

[執筆]NPO法人すみよし歴史案内人の会 ますの隆平

㉒ 2025年10月(令和7年10月)

すみよし
歴史
コラム

桂米朝記念碑
人間国宝

住吉大社境内「桂米朝記念碑」

◆◆◆ 住吉の笑芸人 第1回 ◆◆◆

すみよしかご
住吉大社の前で客を呼び込む駕籠屋を題材にした「住吉駕籠」や「卯の日詣り」など、住吉界隈は数々の上方落語の舞台になりました。そんな住吉に上方落語四天王と呼ばれた二人の落語家が住んでいたのをご存じでしたか？

かつらはるだんじ
一人目は、三代目桂春団治です。羽織を真後ろに一瞬で落とす流麗な所作や絶妙の間など、華やかで洗練された芸風で、得意ネタは「野崎詣り」。二人目は、六代目笑福亭松鶴です。春団治とは対照的に、ダミ声・豪快・力強さの中に纖細さを持ち合わせた芸風で、醉態と子どもの描写は他の追随を許しませんでした。得意ネタの「らくだ」を聞いた古今亭志ん朝・立川談志はその完成度の高さに口がきけなかったといいます。今年1月、住吉大社境内に顕彰記念碑が建てられた桂米朝（落語四天王の一人、人間国宝）も松鶴の存命中は敢えて「らくだ」を演じなかつた程です。現在、松鶴の旧居を改築した寄席小屋「帝塚山 無学」では、弟子の笑福亭鶴瓶のトークショーが年に数回開催されています。

住吉区では、今も各所で落語会が開かれており、皆さんも一度足を運ばれてはいかがでしょうか。

「帝塚山 無学」(写真はいずれも著者撮影)

[執筆]
NPO法人すみよし歴史案内人の会 實宗 康浩
さむね やすひろ

㉑ 2025年1月(令和7年1月)



◆◆◆ 「住吉を走る日本最古の私鉄」 ◆◆◆

住吉区に日本最古の”私鉄”が走っていることを知っていますか？

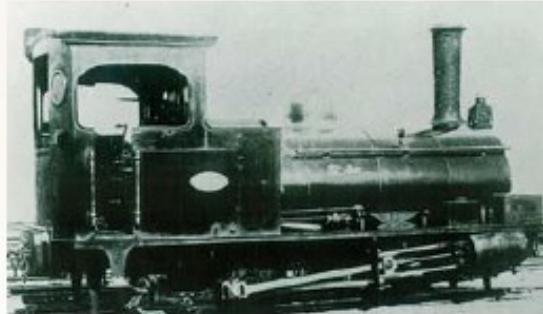
なんば駅を起点に和歌山、高野山方面につながる現在の南海電鉄は1885年(明治18年)に難波～大和川北岸(7.6km)を小型蒸気機関車で開通したことに始まります。

1884年(明治17年)大阪の財界人が発起人となり、大阪と堺を結ぶ鉄道路線を整備するため、純民間資本の大坂堺間鉄道(のちに阪堺鉄道と改称)を設立しました。その後、高野鉄道などとの合併を繰り返し1947年(昭和22年)南海電気鉄道が誕生しました。ちなみに現在のJR阪和線も南海山手線の時代がありました。

住吉区に鉄道が開通してから約140年、南海線をはじめ6つの路線が大阪中心部から住吉区を経由して堺方面、関西国際空港とも直結しています。

また、2031年には新線・なにわ筋線が開業予定で新大阪への直通ルートが一つ増え、住吉区はますます便利になります。

▼写真はどちらも南海電鉄のホームページより



開業当時の蒸気機関車 1878年製



空港特急「ラピート」1994年製造

たねさか しゅういち

種坂 修一

②⓪ 2024年10月(令和6年10月)



「住吉郡」の歴史

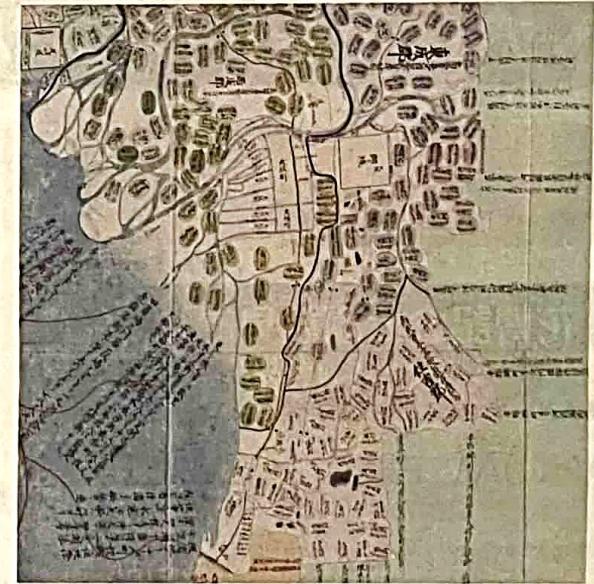
住吉郡は、古代律令制度のもと、摂津国に置かれた郡の一つです。現在の住吉区の全域と住之江区・東住吉区・平野区・堺市の一帯にあたる区域でした。また、概ね現在の大阪市域にあたる部分については、住吉郡のほかに東生郡(後に東成郡)・西成郡がありました。

住吉郡は、その名が平城宮跡から出土した木簡などに見られることから、奈良時代の初め頃には既にあったと考えられています。古くは「住吉」と書いて、「すみのえ」と読んでいたようですが、平安時代の初め頃から、「すみよし」という読み方が定着しました。その後住吉郡は、時代による浮き沈みはあるものの、明治29年まで存続します。

一方、「大阪」の地名は、明応7(1498)年の蓮如上人の手紙に「東成郡生玉之庄内大坂」とあるのが初見とされていますので、史料に初めて登場する年で比較すると、「住吉」は「大坂(大阪)」より700年以上も昔からある地名ということになります。

このはるか万葉の昔からの地名を受け継ぐのが、私たちの住吉区なのです。

執筆:NPO法人すみよし歴史案内人の会 森島 克一



▲右下部に住吉郡とあります。大和川付け替え前の絵図です。
出典:「元禄国絵図・摂津国」(国立公文書館デジタルアーカイブ)

⑯ 2024年1月(令和6年. 1)

すみ
よし
歴史
コレ

◆◆『古事記』と住吉◆◆

『古事記』というとなんだか難しそうなイメージですが、実際に読んでみると内容はすごく人間っぽい神様たちのお話から始まります。登場するのは、神様界1番のプレイボーイ大国主や、黄泉比良坂で史上初の夫婦げんかをした伊邪那岐・伊邪那美、「海幸彦・山幸彦」や「浦島太郎」に登場する竜宮の王様とお姫様の豊玉彦・豊玉姫、美人三女神の三子女市杵島姫、奈良公園に鹿を連れてきた建御雷などなど。ところでこれらの神様は何とすべて住吉大社の摂社・末社にお祀りされているんですよ。

また、「住吉大社は海の神様・航海の神様」と言われているのは、大社本宮に祀られている「底筒之男命・中筒之男命・表筒之男命」が海の中の「底層・中層・表層」でお生まれになったから。

2023年は古事記の編纂に関わった太安万侶没後1300年に当たり、様々なイベントが行われました。当会でも本年2月にすみよしの魅力PR事業として古事記の専門家や住吉大社神職をお迎えして講演会とまち歩きを行います。日本最古の歴史書『古事記』を肌で感じてみませんか。

執筆:NPO法人すみよし歴史案内人の会 谷口 精一

▲国立国会
図書館デジタル
ライブラリーより

▲豊玉彦と豊玉姫を祀る大海神社
(住吉大社摂社) 著者撮影

⑯ 2023年10月(令和5年. 10)

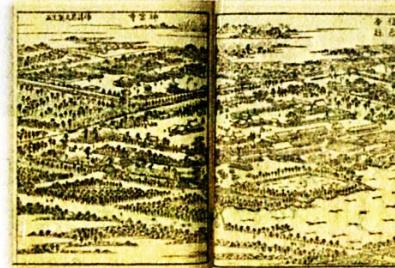
すみよし
歴史
コラム

江戸時代の観光ガイド「名所図会」と住吉

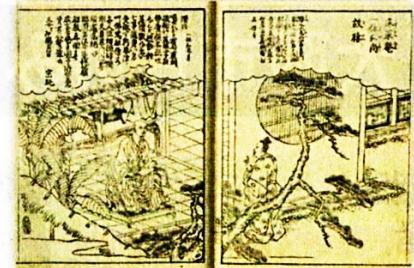
江戸時代後期から寺社参詣の流行と結びついて観光の楽しみが広まっていきましたが、当時の人々にとって観光とは、名所をめぐって土地の風景や名物を愛で、由来を偲ぶことが中心で、そのガイドブックとなったのが名所図会でした。図会には有名寺社や名所旧跡などが載り、実景を描いた絵も豊富に添えられています。日本最初の名所図会は、京都の名所を題材に安永9年(1780)に刊行された『都名所図会』ですが、二番目が『住吉名勝図会』で寛政6年(1794)の刊行です。

この図会が人気だったので、続けて寛政8年から10年(1796~1798)にかけて、今度は大坂全体を取り上げた『摂津名所図会』全10巻が刊行されます。第一巻目は「浪速の始原」で大坂の歴史が書かれますが、続く名所解説の筆頭に掲載されたのはやはり「住吉郡」でした。観光地として住吉はとても人気があったことが分かりますね。

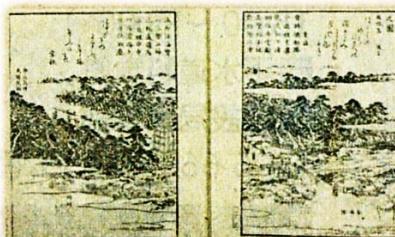
名所の風景図や有名寺社境内の俯瞰図、さらに当時の行事や風俗などを描いた図版を見ながら、往時を偲んで住吉のまち歩きを楽しむてはいかがでしょう。



▲『摂津名所図会』「住吉神社」



▲『摂津名所図会』
「牀菜庵 一休和尚故棲」



▲『住吉名勝図会』「住吉浜辺の図」

出典:三点とも
大阪市立図書館ホームページ
「デジタルアーカイブ」より

執筆:
NPO法人すみよし歴史案内人の会
ますの隆平

⑯ 2023年4月(令和5年. 4)

歴史コラム すみよし歴史散歩

Osaka Metroあびこ駅から南へしばらく行くと、我孫子南中学校、住吉スポーツセンター、そして住吉区では万代池公園に次いで2番目に広い浅香中央公園があります。かつてここには大阪市営地下鉄の車庫「我孫子検車場」がありました。1964年(昭和39年)の空中写真には我孫子検車場と埋め立て前の依羅池やハ反池も写っています。

大阪の地下鉄は1933年、御堂筋線の梅田から心斎橋間3.1kmに開業したのが始まりで、1960年にはあびこまで延伸され、同時に約10万m²の我孫子検車場が開業しました。検査場では営業運転が

〈地下鉄あびこと検車場〉

終了した車両の留置や検査、修繕を行っており、日夜地下鉄の安全運転を守っていました。

さて御堂筋線はさらに延伸し1987年には中百舌鳥まで開通しました。その際に新しく中百舌鳥検車場ができ、我孫子検車場は廃止されました。跡地の浅香中央公園西側には当時の面影を残す車輪や最終出庫車両の番号板、検車姿のモニュメントがあり、春には桜がきれいに咲きます。平日の朝、あびこ駅で折り返し江坂方面行きの始発列車が3本残っているのも終着駅であったことを物語っています。



浅香中央公園・筆者撮影



国土地理院空中写真を元に編集

執筆:NPO法人すみよし歴史案内人の会 種坂修一

⑯ 2023年1月(令和5年. 1)

歴史コラム すみよし歴史散歩

〈 南朝と住吉 〉

平安時代から住吉神社宮司・津守氏と京都の宮廷貴族とは和歌を通じて親交がありました。1330年(元徳2年)後醍醐天皇が比叡山大講堂の造営供養をされた折、第51代神主・津守国夏が舞楽の太鼓曲「獅子曲」を演奏したことから後醍醐天皇との結びつきができ、以降津守家は南朝方に立つことになりました。



▲後村上天皇 住吉行宮正印殿址碑(著者撮影)

1352年(正平7年)に後村上天皇は住吉に行幸し、津守国夏の館「正印殿」を行宮(仮の皇居)とされ、1360年(正平15年)再度行幸すると、1368年(正平23年)3月11日にここ

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

で崩御されるまでの約8年間「正印殿」を行宮とし、住吉が南朝側の首都となります。次の長慶天皇はここで即位された後、吉野へ移られました。その後は南朝と住吉の関係は薄らいでいきます。

住吉行宮のほかに南朝と関係する住吉の史跡としては、後村上天皇が、父後醍醐天皇の法要を二度営まれた莊嚴淨土寺があり、また、楠木正成の関連では正成の念持佛である毘沙門天王を本尊とする東福寺や、境内に楠木正成が奉納したと伝わる石灯籠がある極楽寺などがあります。

2月19日(日)に
「講談とまち歩き-南朝と住吉」を開催いたします
詳しくはNPO法人すみよし歴史案内人の会
TEL 6690-7723(月・水13:00~16:00)まで

執筆:NPO法人すみよし
歴史案内人の会 吉田進



▲極楽寺
楠木正成寄進の
灯籠(著者撮影)



◀莊嚴淨土寺
後村上天皇聖蹟碑
と歌碑(著者撮影)

⑯ 2022年1月(令和4年.1)

歴史コラム すみよし歴史散歩

いつ すん ぼう し 一寸法師と住吉

室町時代に語られたお話をを中心に江戸期に発刊された絵入り物語集『御伽草子』に載っているのが「一寸法師」のお話。摂津の難波に住んでいたおじいさんとおばあさんが住吉社に子授けを祈願します。住吉明神の御利益によってめでたく生まれた赤ん坊は大きさが1寸(約3.3cm)しかなく、一寸法師と名付けられました。この法師が住吉大社近くの「住吉の浦」からお椀に乗り京の都に向かって船出します。

「種貸社」の一寸法師モニュメント(著者撮影)

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

都に着き、貴族の邸を訪ね、館の美しい姫に一目惚れした一寸法師は、策略を巡らして姫を連れ出し、漂着した島で鬼退治をします。手に入れた打出の小槌を使って自分の背を大きくした一寸法師は、鬼の財宝を手に入れて都に戻ると帝から少将に任命され、姫と結婚し、両親を都に呼んで幸せに暮らしました、というお話です。

極端に背の低かった一寸法師が鬼退治の結果人並みの体格に変化した、これが彼にとっての成人式といえるのかもしれません。住吉大社の末社の一つ「種貸社」鳥居の手前にある手水舎にはお椀に乗った小さな一寸法師が、また境内には大きなお椀の船のモニュメントがあります。住吉大社参詣の機会があればぜひご覧ください。

執筆:NPO法人すみよし歴史案内人の会 ますの隆平

「種貸社」鳥居前の手水舎(著者撮影)



⑯ 2021年11月(令和3年.11)

地形と水害の関係について

大阪市は低地が多く、非常に浸水しやすい地形です。住吉区においても平成29年10月の台風21号の影響により大和川の水位が危険水位まで上がったことから、「避難勧告」が発令されました。氾濫等による浸水想定は水害ハザードマップにて確認できます。今回は、住吉の地形の成り立ちを、歴史から紐解いてみましょう。

歴史コラム すみよし歴史散歩

住吉の地形

住吉大社は今から約1800年前に創建されたと伝えられており、現在の大阪城付近から続く上町台地の南西端海岸線上に鎮座し、大社南側の住吉津から遣隋使・遣唐使が大陸に船出をした所です。古代の大坂平野には、生駒山麓へ深く入り込んだ河内湖と呼ばれる湖がありましたが、上町台地の東側には我孫子台地が生野区の御勝山古墳付近から南下して、股ヶ池・長池などで上町台地との谷筋を形成し、住吉区内の長居・我孫子・苅田・杉本から泉北丘陵に至っています。また柏原で石川と合流して北上していた大和川は江戸時代に付け替えられ、西へと川筋を変えました。浅香付近で川が大きく南へ蛇行しているのは我孫子台地の硬い地盤を避け、狭間川の河道と古代に造られた依網池を利用したためです。

住吉は古代から近現代までの長い歴史の間で地形が大きく影響してきました。来年2月27日開催予定の令和3年度すみよしの魅力PR事業「地形から見る住吉の魅力」では、住吉の地形や高低差をテーマとして講演会とまち歩きを行います。住吉の地形に興味のある方は是非ご参加ください。

NPO法人すみよし歴史案内人の会 牧野 憲詳



住吉大社 反橋
海につながっていた水路(筆者撮影)



出典『大阪遺跡』
(財)大阪市文化財協会編 創元社(一部加筆)



昭和初期の地形図と
3Dカシミールを合成
(筆者作成)

⑬ 2021年6月(令和3年.6)

歴史コラム すみよし歴史散歩

おたうえしんじ 御田植神事

初夏の風物詩-田植え。田の神さまを祀り、五穀豊穣を願う田植え神事は全国各地で行われています。なかでも、住吉大社で毎年6月14日に行われる「御田植神事」は、実際の田を使用し、諸儀式を省略せずに盛大に行われるもので、重要無形民俗文化財に指定されています。

神前より授かった早苗は植女から替植女に渡され、田植えが蕭々と進められていきます。その間、御田に設けられた舞台では、神楽女による「八乙女舞」、侍大将が威武を示す「風流武者行事」、



住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

菅笠の女児による「住吉踊」などが演じられます。これは、芸能の力が穀靈の働きを増進し生育を促すという古来の考え方によるものとされています。

大都市・大阪に脈々と受け継がれてきたこの「御田植神事」。私たち現代人にとって、昔ながらにゆったりと流れる時間の中、日本の原風景に出会える素晴らしい宝物といえるのではないでしょうか。

NPO法人すみよし歴史案内人の会 森島 克一
(写真は筆者撮影)

【ご注意】住吉大社さまHPの4月30日付「御田植神事中止のお知らせ」によると、「新型コロナウイルス感染拡大防止の為、御田植神事(6月14日)の御田式場之儀を中止いたします。神事の拝観はできません。」とあります。
残念ながら観覧できるのは来年以降となるようです。



⑫ 2021年1月(令和3年.1)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

帝塚山開発ものがたり

明治時代後半まで住吉村は一寒村にすぎず、村の大半は耕地・荒蕪地でした。明治33年(1900年)、人口増による食糧不足を解消する目的で「耕地整理法」が施行され、明治42年(1909年)には整理後の耕地を宅地に転売できるよう改正されました。

住吉村においても村長の太田儀兵衛が自ら組合長となって、明治45年(1912年)「住吉第一耕地整理組合」を設立、阿倍野街道以西・高野線以東の土地4万3千坪余の区画整理に着手しました。大正3年(1914年)に耕地整理が完了すると、当地の大地主であつた山田市郎兵衛など17



東成土地建物株式会社経営地之図(千島土地所蔵)

名の地主が設立した「東成土地建物株式会社」によって住宅地として分譲を開始しました。

都市人口が膨張し続けていた当時、大阪中心部からのアクセスが便利なうえ環境も良好な帝塚山地区には、船場の商人達が相次いで邸宅や別荘を構えました。関西における宅地開発のさきがけとなった「帝塚山」は瞬く間に高級住宅街へと変貌していったのです。

その後、「住吉第一」地区の南側に「住吉神一」、東側に「住吉第二」の耕地整理組合が設立され、お屋敷街としての帝塚山がさらに拡大、発展していきました。

執筆 NPO法人 すみよし歴史案内人の会 森田 正紀

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアーなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。



すみよし歴史案内

検索

⑪ 2020年10月(令和2年.10)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

長居の歴史

長居は、古くは大阪湾に近い入り江の風光明媚な場所でした。鎌倉時代頃に詠まれた歌に、『長居、長井、長為』という名が出ており、その頃からすでに『ながい』と呼ばれていたことがわかります。

江戸時代には長居地域は、摂津国住吉郡『寺岡村、堀村、前堀村』の3つの村に分かれており、城や砦のまわりに水路をめぐらせた環濠集落となっていました。旧寺岡村の神須牟地神社、旧堀村の保利神社周辺は現在も入り組んだ路地が当時を偲ばせています。

これらの3つの村は明治になって依羅村に統合されましたが、1894年（明治27）分離して『長居村』となりました。その後、1925年（大正14）に大阪市に編入され



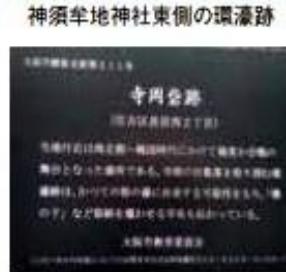
大正12年発行 大日本帝国陸地測量部
1万分の1地形図 「住吉」鉄道道路加筆

『住吉区西長居町、東長居町、南長居町』と

なり今日の『長居』に至っています。

また長居は大坂夏の陣以降、戦火を逃れた武者が手懃りに始めたと伝えられる花の栽培が有名で、最盛期の大正年間には200戸余りの農家が『寺岡の仏花』として近郊の寺院等に花を納めていました。

戦後は急速に住宅地化が進み、現在敷地が東住吉区に所属する長居公園の整備と共に新しい町と古い町が混在する魅力ある街並みとなっています。



寺岡登記
（河内守義定作成）
寺岡村は住吉第一地区の北側に位置する古
いからとられた地名である。寺岡村の名は元々は朝
雲村といっていたが、後に寺岡村に改められた。寺
岡の寺は真光寺である。寺岡村は現在の東住吉
区に属する。寺岡村の北側には、現在の長居
公園がある。長居公園は、元々は寺岡村の領地
であったが、明治時代に開拓されたものである。
寺岡村の北側には、現在の長居公園がある。

真光寺前の寺岡堀説明パネル

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 牧野 憲詳

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索

⑩ 2020年8月(令和2年.8)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

よさみ いけ こ だい ごう そく よさみ し 依網池と古代豪族依羅氏

「我孫子」と書いて「あびこ」。この難読地名、実は古代に当地を支配した豪族の依羅吾彦（よさみのあびこ）一族に由来します。依羅氏は、網を用いて魚や鳥を獲る、当時の先進技術を持った一族と考えられており、その祖神をお祀りしたのが大依羅神社の起源とされています。

かつてこの神社の南西に広がっていたのが依網池です。5～7世紀築造の日本最古級の人工池で、推定で30ヘクタール（甲子園球場約8個分）を超える広大なものでした。灌漑



大和川開鑿前地方図
(大依羅神社蔵、部分図)
大和川付替え前の絵図。
左上に狭山池、右下に
依網池が見える。

目的のほか、鯉や鮒、ジョンサイを育てていたとする説もあります。ヤマト王権の直轄地である屯倉が置かれたぐらいですから、交通の要衝にある恵み豊かな地だったようです。また、清泉湧く名水の地としても知られ、「庭井」の町名はその名残です。

さて、その後の依網池ですが、江戸中期の大和川付替えにより約三分の一を失い、その後の市街化などにより、昭和後期には完全に姿を消してしまうという運命を辿ります。この古代の溜め池の消長は、まさに時代の移り変わりを映すものであったわけです。



「6-7世紀ころの攝津・河内・和泉の景観」
(部分図)日下雅義『古代景観の復原』
中央公論社(1991)依網池は図の中央。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 森島 克一

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアーナなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索

⑨ 2020年3月(令和2年.3)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

「住吉鉄道ものがたり」

住吉区内には6本の鉄道・軌道が走っています。それを住吉区内を走った古い順番に並べると、一番古いのが明治18年(1885)の南海本線で、次いで南海高野線と阪堺上町線が同じ明治33年(1900)に、阪堺阪堺線が明治44年(1911)、そしてJR阪和線が昭和4年(1929)、大阪メトロ御堂筋線が最も新しく昭和35年(1960)に住吉区内を走り出しました。

最も古い南海本線は開業当時は阪堺鉄道という名前で、難波と大和川間で開通しました。現在日本には数多くの民営鉄道(私鉄)が走っていますが、南海本線は現存する日本最古の私鉄だと言われています。

阪堺上町線は、大阪馬車鉄道として開業しました。線路上の

車両を馬が引っ張る鉄道でした。現在は最新の堺トラムも走っていますが、モ161形という昭和初期に製造された車両も今もなお現役で頑張っています。人間の年齢でいうと満90歳。まさに「走る文化遺産」です。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 貝原 有



馬が牽いてた上町線



阪堺電車モ161形



堺トラム

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

[すみよし歴史案内](#)

[検索](#)

⑧ 2020年1月(令和2年.1)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただきたためのコーナーです。

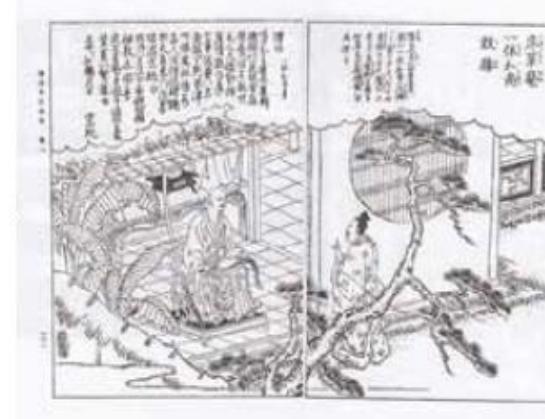
「一休禅師(一休宗純)と住吉」

一休禅師は6歳で仏門に入り、22歳のとき大徳寺高僧の弟子となつて一休の道号を与えられます。詩才に優れていた一休は5年後に寺を出て、仏門の決まりにはお構いなく酒、肉食など自由奔放な生活を続けました。応仁の乱で京が焼野原となると山城南部の薪村の「酬恩庵」へ、さらに奈良、堺へと移り住みます。堺の豪商尾和宗臨から住吉に庵を提供された一休は、住吉大社にいた老僧から歌を所望され「来てみればここも火宅の宿(煩惱の多い世のこと)ならむなに住よしと人のいふらむ」と一首皮肉ると、老僧は「来てみればここも火宅の宿なれど心をとめて住めば住みよし」と返したので感心し、「雲門庵」を築いて弟子とともに移り住んだ、との逸話が



一休禅師牀菜庵跡碑(上住吉西公園内)

残っています。一休が77歳のとき、大社の神宮寺で森女と出会い、雲門庵の側(現在の上住吉2丁目の地)に小さな庵をつくり「牀菜庵」と号してここで同居しました。住吉の地に住むこと約8年、森女と子を伴い、薪村の酬恩庵に戻り、3年後に享年88歳で亡くなりました。



「攝津名所圖鑑」より(国立国会図書館蔵)

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 石田 明彦

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアーやイベントなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索

⑦ 2019年7月(令和元年.7)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

「北前船と大阪・住吉」

北前船は、江戸時代中期(1750年頃)～明治30年代にかけて、大阪と北海道を日本海廻りで行き来し、様々な商品を流通させていました。木造の帆船ながら約150トン積で当時としては非常に大きな船(いわゆる千石船)でした。4月頃から10月末頃までの間、瀬戸内海や日本海沿岸の各地に寄り、船主自身が各地の特産品などを売買しながら行き来する「のこぎり商い」を行って大きな利益を得ていました。関西・中国地方から、綿・木綿・砂糖・塩・衣類・紙・ろうそくなどが北海道・東北地方に運ばれ、逆に北海道・東北地方からは、ニシン・干鰯(ほしか)・数の子・昆布・米などが大阪に運び込まれました。特に昆布は大阪の食文化に大きな影響を与え、現代まで続いている。このように北前船は、単に商売だけではなく、日本の文化交流の大きな橋渡しの役目を果たしていました。

その当時の航海は、ひとたび嵐が来れば命懸けで船を操らなければならぬ過酷なもので、「板子(いたご)一枚下は地獄」とも



北前船(模型)

いわれ、船乗りは「間違いがあれば後はよろしく」と言って船出したといわれています。住吉大社は海上交通の守り神を祀っていますので、昔から航海の安全と商売繁盛の祈願のために、多くの石燈籠(いとうろう)や絵馬などが奉納されています。

日本遺産に認定されている北前船のストーリーに、昨年5月、新たに北前船にゆかりのある構成文化財として「住吉大社」と、住吉大社境内に並ぶ「石燈籠」が登録されました。住吉にとって誇るべきものがまた一つ増えたといえるのではないでしょうか。

北前船と大阪・住吉についてのまち歩きと講演会を11月17日(日)に開催します。区民のみなさんのご参加をお待ちしております。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 吉田 進

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアーなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。



石燈籠



引き札「高岡市伏木北前船資料館所蔵」

すみよし歴史案内

検索

⑥ 2019年3月(平成31.3)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

「万葉集と住吉」

住吉は、古代から江戸期まで白波が打ち寄せる澄んだ入江と松原を持つ白砂青松の地であり、岸の黄土や姫松などをシンボルとして数多くの和歌が詠まれました。万葉集4516首のうち「すみのえ」(住吉)という語句の入った歌が39首あり、他に「岸黄土、網引、朝香、依羅」などの語句でこの地を詠んだものを合わせると約50首が住吉関連の万葉歌となります。「白波の千重に来寄する住吉の岸の黄土ににはひて行かな」(車持朝臣千年 万葉集卷6)

住吉大社反橋の西北すぐに住吉関連万葉歌17首を載せた歌碑があり、航海の神である住吉大神に遣唐使船の無事を祈った「住吉に齋く祝



住吉大社万葉歌碑(著者撮影)

が神言と行くとも來とも船は早けむ」(多治比真人土作 万葉集卷19)などが刻まれています。また南海本線粉浜駅前には、東粉浜に住んだ万葉学者の犬養孝氏が揮毫した「住吉の粉浜のしじみ開けも見ず隠りてのみや恋ひ渡りなん」(万葉集卷6)の石碑があります。

なお、万葉集で住吉は「清江、墨吉、墨江、墨之江、須美乃延、須美乃江」など様々な漢字で表記されますが、すべて「すみのえ」と読みます。「すみよし」と読まれるようになるのは平安時代以降です。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 ますの隆平

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。



粉浜駅前万葉歌碑(著者撮影)

すみよし歴史案内

検索

⑤ 2018年12月(平成30.12)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

住吉の街道(熊野街道・紀州街道・磯齒津路)

住吉には、古よりそれぞれの時代を代表する街道があります。

熊野街道は、平安時代、京の都から和歌山の熊野本宮へ参詣に向かう多くの貴族が往来し、室町時代には武士から庶民に広がり「蟻の熊野詣」といわれるほどの賑わいを見せました。万代池公園から旧住吉村、遠里小野へと「熊野かいどう」碑をたどることができます。

紀州街道は、江戸時代元禄の頃に紀州徳川家の参勤交代路になり、住吉大社前付近は料亭や土産物屋が軒を並べ賑わい、「東海道中膝栗毛」では弥次さん喜多さんの舞台になりました。塚西から阪堺線に沿い南へ、住吉大社前から安立、大和橋に至ります。

「磯齒津路」は、『日本書紀』に雄略天皇の時代、住吉津に上陸した中国の使者が奈良の都へ向かう道とされていますが、発掘されておらず

“幻の古道”です。住吉大社から東へ向かう住吉街道の道筋にあたり、長居公園通りに沿い喜連に向かうとされています。

代表的な三つの街道を歩いてみませんか。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 森田 俊郎



万代池公園の「熊野かいどう」碑



「紀州街道」碑(長嶺町)



長居公園通りの
「歴史の散歩道」碑
(長居西3)

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索

④ 2018年11月(平成30.11)

歴史コラム すみよし歴史散歩

「南朝を支えた住吉大社」

わが国の歴史において、京都の北朝と吉野の南朝の2つの朝廷が並存し、正統性を主張して対立した時期がありました。南北朝時代です。

現在、住吉大社の南に、^{あんぐう}住吉行宮跡といふ国指定の史跡があります。ここは、住吉大社の代々神主家であった津守氏の居館跡であり、^{しょういんでん}正印殿と呼ばれていました。^{しょうへい}正印殿は、南朝の後村上天皇が、正平7年(1352年)2月から閏2月にかけて、そして、正平15年(1360年)9月から23年(1368年)3月に崩御されるまでの約8年間、ここに滞在して行宮(仮の御所)とされた場所です。後村上



住吉行宮跡

天皇は、住吉行宮に滞在中はここで政治を行われ、父・後醍醐天皇の追善のため、^{しょうごんじょう どじ}莊嚴淨土寺(帝塚山東5-11-14)で法華八講という法要を2度営まれました。ここは、南朝の一大拠点と呼ぶにふさわしい場所でした。

住吉大社では、この地で崩御された後村上天皇を偲んで、毎年4月6日(新暦の崩御日)に「正印殿祭」が行なわれています。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会 菅井 弘明
参考文献「住吉っさん」(平成30年6月1日住吉大社発行)

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。



すみよし歴史案内

検索

③ 2018年9月(平成30.9)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

「遠里小野と油」

遠里小野の油の歴史は古く、江戸時代に書かれた『搾油濫觴』には、神功皇后11年(211年)住吉大社の御鎮座以来、神事の際には遠里小野において榛の実から灯明油を搾油して納めたと記されています。以来、神事に用いる灯明はすべて遠里小野で生産されていました。

平安時代になると、現在の大山崎町(京都府)で「長木」という道具を使って荏胡麻から搾油されるようになり、朝廷から「荏胡麻製油の長」に認定され、独占権を認められるなど、大山崎の荏胡麻油が全国に広まるようになりました。

しかし、江戸時代初期に遠里小野の若野某という人が、油分の多い蕷苔子(アブラナ)より油を搾ることに成功し、住吉大社へ献納されました。搾油濫觴では、このことを『是皇國菜種油の始なり』(原文のまま)と記されていて、遠里小野がわが国の菜種油の発祥の地とされています。

菜種油は、荏胡麻油に比べて品質も収穫力も優っていました。また新たに油搾りの道具として「しめ木」が発明されたことによって、村を大いに

富ませました。搾られた油は、遠里小野から諸国へ多くの油売りが出て販売するようになり、油売りたちは「油茶屋」を建て、ここで油の値段を決めていました。今でも、遠里小野橋付近に「油茶屋」という地名が残っています。

江戸幕府は、当初搾油業を大坂に集中させるようにしましたので、いよいよ盛大になりましたが、時代が進むにつれて大坂以外でも搾油業が開始されるようになりました。江戸後期には統制も崩れたため、遠里小野の地位も衰退していきました。

執筆 NPO法人すみよし歴史案内人の会
吉田 進



「製油錄・下」より



離宮八幡宮所蔵「油売りの図」

【参考資料】
『搾油濫觴』(ちまた)垂兵衛著 文化7年(1810)
※濫觴(らんじょう)…物の始まりの意
『製油錄』(だいゆれき)大蔵永常著 天保7年(1836)
『東京油問屋史』編纂委員長島田孝克(幸書房)
『菜の花の便り』第1号～第5号 (株)山中油店

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索

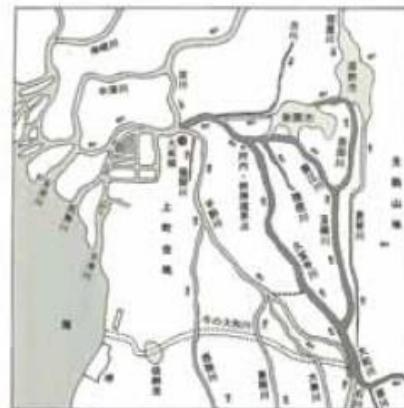
② 2018年7月(平成30.7)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

「大和川の付け替え」

住吉の南を流れる大和川。江戸時代には川が多量の土砂を運び、度重なる洪水被害が河内・摂津の人々を苦しめていました。その解決のため、幕府が川筋の付け替えを決定。宝永元年(1704)、流路を柏原から西の堺港に注ぐ工事が行われ、今の流れになりました。もちろん、住吉のように付け替えで田畠が失われたり、村が分断されたりと、新しい川筋になる地域からは強い反対運動もおこりました。工事では総延長14.3km、幅180m、堤防の高さ5mの新たな川筋を作り、驚くのは着工



「ジュニア版 甚兵衛と大和川 中九兵衛著 大和川叢書」より

から竣工まで工事日数わずか225日(8ヶ月弱)という超スピードで完成したという事実です。

新川筋はJR浅香駅から南海高野線の大和川鉄橋に至っては川が大きく曲がり、「浅香の千両曲り」と呼ばれています。掘り下げる部分ができるだけ少なくするために、付替え前からあった狭間川(はざまかわ)や古代にあった榎津(えなつ)の港を利用したために大きく曲がったもので、元の地形をうまく利用し、無駄のない方法を考えて工事がされています。

[すみよし歴史案内人の会 大島喜久男]

すみよし歴史案内人の会では、住吉の歴史や魅力を伝えるまち歩きツアなどを開催しています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

[すみよし歴史案内](#)

[検索](#)



「ジュニア版 甚兵衛と大和川 中九兵衛著 大和川叢書」より

① 2018年5月(平成30.5)

歴史コラム

すみよし歴史散歩

「帝塚山と文学」

大正時代初期に「東成土地建物株式会社」が住宅用地として整備して以来、帝塚山は大阪を代表する郊外型高級住宅地へと変貌しました。大正6年(1917)4月に庄野貞一氏を初代校長として私立帝塚山学院小学部を創設、大正15年(1926)には女学部(高等女学校)も開校して地域教育の中核的存在となり、さらに旧制の住吉中学校・大阪府女子専門学校・大阪高等学校が次々と開校して高度文教地区となっていました。

近隣に住んだ東洋学者石濱純太郎、帝塚山学院長庄野貞一、作家の



左から秋田實、長沖一、藤澤恒夫
〔大阪春秋〕第155号「特集:回憶の藤澤恒夫」より
写真提供:大阪春秋編集室

住吉区の歴史や魅力を皆さんに再発見していただくためのコーナーです。

藤澤恒夫、石濱恒夫、庄野英二、庄野潤三、阪田寛夫、秋田實、長沖一や住吉中学校で教鞭を執っていた詩人の伊東静雄らによって形成されたのが「帝塚山文化圏」です。昭和21年には藤澤恒夫たちが同人誌『文学雑誌』を発刊、この文学運動はやがて「帝塚山派文学」と呼びうるような香り高い上質の文学を生み出していきました。

すみよし歴史案内人の会では『帝塚山風物詩』(庄野英二著)で描かれる文学のまち帝塚山をご案内しております。

[すみよし歴史案内人の会 ますの隆平]
詳しくは、ホームページをご覧ください。

すみよし歴史案内

検索





▲会員が複写した住吉かいわいの古地図。住吉の歴史文化は間口が広く奥行きも深い。



▲すみよし歴史案内人の会の事務所。木のぬくもりが温かい。地元の子ども会から借り受けた。

このページでは住吉区内で活躍されている人・団体・企業を紹介していきます

すみよし歴史案内人の会
住吉区上住吉1-9-26 ☎ 6690-7723
<https://www.sumirekian.jp/>

問合せ 政策推進課 3階 35番窓口 ☎ 6694-9842 ☎ 6692-5535

複数のガイドが案内する
まち歩きツアーを開催中

すみよし歴史案内人の会は、住吉大社などで培われてきた住吉区の豊かな歴史文化を紹介する市民団体で、現在47名のボランティアガイドが活動しています。「住吉まち歩き」を毎年春、秋に開催するとともに、各地のボランティアガイドと連携して「大阪奈良歴史街道リレーウォーク」「なにわの宮リレー」「ウォーク」などを共催。今春の「住吉まち歩き」は4月から6月にかけて、「住吉大社祭りコース」「帝塚山古墳コース」などの定番コースに加え、高低差を感じさせる新設の「あべの上町台地の坂」と古蹟をめぐる「スヌーピー」コースで計11回開催中です。

各コースとも事前予約が不要で、当日現地で申し込み可能(参加費ひとり300円)。ツアーの所要時間も2時間までと短めに設定し、どなたにも気軽に参加しやすいのが特色です。参加人数に応じて、数名のガイドが同行。交通安全などに配慮しながらコースを案内し、随所で貴重な見どころの情報や印象深いエピソードを提供しています。自らガイドを務める塙越圭子代表は、住吉の魅力を次のように話します。

新しいガイド会員を募集

先輩がマンツーマンで指導

間口が広く、奥行きも深い住吉の歴史文化。ガイドはどんな準備や心構えで臨んでいるのでしょうか。

「歴史は調査研究の進展で更新されることがあります。ガイドは正確な情報を共有し、うそは言わない、決めつけない。個々で研究することと多くの皆さんに伝えることは違います。持論を展開するではなく、参加者全員にはつきり分かりやすく理解できるよう

に説明し、住吉の歴史文化への関心を深めていただけるよう心がけています。い

ちばん大切なのは笑顔とおもてなしで

しょうか」塙越代表



塙越圭子さん。住吉区生まれ。転居時期を経て住吉区へ戻ってからはふるさと住吉の魅力を再発見。2008年、すみよし歴史案内人の会創設に加わり、現在、二代目代表を務める。趣味は旅行や食べ歩き。

「すみよし歴史案内人の会」代表
**塙越
圭子
さん**



「きょうはありがとう」 感謝の言葉がガイド冥利に みよう

「すみよし歴史案内人の会」代表

塙越
圭子
さん

2018年5月(平成30.5)